

宇都宮市立今泉小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見通しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業展開をする。	児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり、目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末には、自ら学びを振り返る時間を確保することができるようにする。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」は、6学年中4学年の肯定割合が市の平均を上回った。「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している。」は、全学年、「学習した内容について、分かった点やよく分からない点を見直し、次の学習につなげることができる。」も質問された4学年全てで市の平均を上回っており、昨年度より主体的に学習に取り組んでいる児童が増えている様子が伺える。「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している。」の6学年の平均は82.8%で昨年度と同じであったが、同じ集団で比較すると、どの学年でも学年が1つ上がると肯定回答が3ポイント程度下がっていく傾向にあることが分かった。
児童一人一人が学ぶ喜びを味わうことができる支援を工夫する。	「自分でできた」と子ども一人一人が感じることができる授業を工夫したり、学習に主体的に取り組むことができる学習環境を整えたりする。	「学習して、いろいろなことが分かったりできるようになったりすることはうれしい。」の肯定割合は、どの学年も9割を超えており、6学年中3学年で市の平均を上回っているが、高学年より低学年の肯定割合が市の平均を大きく下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査の結果では、グループなどの話し合いに進んで参加し、自分の考えを伝えたり考えを深めたりする活動を苦手としている児童がやや多いことが分かった。また、自分の考えが伝わるように目的に応じて工夫して書く力に課題があることが分かった。「グループなどの話し合いに自ら進んで参加している」の本校の6学年の肯定割合の平均は昨年度と同じ82.8%だったが、「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる。」の本校の4学年の肯定割合の平均は、昨年度の68.3%から10ポイント近く上り、77.3%になった。各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく活動が成果に繋がってきていると考える。個人用パソコンを活用し、考えを整理したり伝える順序を組み立てたりしやすくしたことも効果が上がってきた要因と考える。今後も、完成したものを交流するだけでなく、考えをまとめていく過程でも、ICT機器を活用して、協働的に学んでいくことで、分かりやすく書いたり、自分の考えを伝えたりすることができる児童の育成に努めていく。